

## 令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議

○会議日程表 ..... p 1

○議事日程 ..... p 2 ～ p 6

(1 2 月 4 日、1 2 月 8 日、1 2 月 9 日、1 2 月 1 0 日)

○一般質問項目 ..... p 7 ～ p 2 1

令和 7 年 1 2 月 4 日

令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議

会議日程

滝沢市議会事務局

日次	月 日	会議区分	開議時刻	日 程	
1	1 2 月 4 日（木）	本 会 議	10:00	・ 再開 ・ 諸般の報告 ・ 行政報告 ・ 会議録署名議員の指名 ・ 議案第 1 号～第 1 2 号 提案理由説明 ・ 同意第 1 号 提案理由説明 ・ 報告第 1 号～第 2 号 報告	
2	1 2 月 5 日（金）	各常任委員会	10:00	・ 付託審査、所管事務調査等	
3	1 2 月 6 日（土）	休 会	—		
4	1 2 月 7 日（日）	休 会	—		
5	1 2 月 8 日（月）	本 会 議 一般質問（4 名） 60 分／人	10:00	1 奥津 一俊	○地域交通について ○予防医療について
				2 川口 清之	○子どもの医療費について ○緊急銃猟制度について
				3 藤原 治	○幹線道路の歩道の管理等について ○市教職員の働き方改革について
				4 柳橋 好子	○小岩井駅の利便性、安全性について ○滝沢市の医療体制構築について
6	1 2 月 9 日（火）	本 会 議 一般質問（4 名） 60 分／人	10:00	1 村木 香織	○第 2 次滝沢市総合計画の進捗について ○市民の安全安心について
				2 安部 理絵	○ラーケーションについて ○5 歳児健康診査について
				3 小田島 清美	○小岩井駅交流スペース充実と観光促進策について ○学校教育における教員不足対策について
				4 鍵本 桂	○産業用地整備の現状について ○誘致企業の現状について ○市政課題の解決に向けた取組について
7	1 2 月 1 0 日（水）	本 会 議 一般質問（3 名） 60 分／人	10:00	1 菅野 福雄	○交通事故非常事態宣言等について ○財政再建について ○本市における虐待の現状と取組について
				2 仲田 孝行	○加齢性難聴者への補聴器購入支援について ○本市の小中学校の教育の男女平等について
				3 相原 孝彦	○障がい者支援について ○総合防災訓練から見た課題について ○障害者等用駐車区画への屋根の設置について
8	1 2 月 1 1 日（木）	休 会	—		
9	1 2 月 1 2 日（金）	本 会 議	10:00	・ 議案 審議 ・ 閉会	
		議会運営委員会	本会議終了後	・ 所掌事務調査等	

## 令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議議事日程（第 1 号）

令和 7 年 1 2 月 4 日（木）午前 1 0 時開議

### 諸般の報告

- （１）現金出納検査結果報告書
- （２）定期監査報告書
- （３）議会活動・議員派遣報告
- （４）説明員の報告

### 行政報告

日程第 1	会議録署名議員の指名	
日程第 2	議案第 1 号	令和 7 年度滝沢市一般会計補正予算（第 5 号）
日程第 3	議案第 2 号	令和 7 年度滝沢市国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）
日程第 4	議案第 3 号	令和 7 年度滝沢市介護保険特別会計補正予算（第 3 号）
日程第 5	議案第 4 号	令和 7 年度滝沢市水道事業会計補正予算（第 1 号）
日程第 6	議案第 5 号	令和 7 年度滝沢市下水道事業会計補正予算（第 2 号）
日程第 7	議案第 6 号	滝沢・雫石環境組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更の協議に関し議決を求めることについて
日程第 8	議案第 7 号	滝沢市企業版ふるさと納税基金条例を制定することについて
日程第 9	議案第 8 号	滝沢市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例を制定することについて
日程第 1 0	議案第 9 号	滝沢市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正することについて
日程第 1 1	議案第 1 0 号	滝沢市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正することについて

日程第 1 2	議案第 1 1 号	滝沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正することについて
日程第 1 3	議案第 1 2 号	滝沢市消防団条例及び滝沢市消防団員の給与に関する条例の一部を改正することについて
日程第 1 4	同意第 1 号	滝沢市固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて
日程第 1 5	報告第 1 号	滝沢市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例及び滝沢市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の専決処分について
日程第 1 6	報告第 2 号	滝沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の専決処分について

## 令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議議事日程（第 2 号）

令和 7 年 1 2 月 8 日（月）午前 1 0 時開議

### 日程第 1 一般質問（4 名）

（1） 1 番 奥 津 一 俊 議員

（2） 9 番 川 口 清 之 議員

（3） 3 番 藤 原 治 議員

（4） 5 番 柳 橋 好 子 議員

## 令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議議事日程（第 3 号）

令和 7 年 1 2 月 9 日（火）午前 1 0 時開議

### 日程第 1 一般質問（4 名）

（1） 8 番 村 木 香 織 議員

（2） 7 番 安 部 理 絵 議員

（3） 1 1 番 小田島 清 美 議員

（4） 1 5 番 鍵 本 桂 議員

## 令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議議事日程（第 4 号）

令和 7 年 1 2 月 1 0 日（水）午前 1 0 時開議

### 日程第 1 一般質問（3 名）

（1） 2 番 菅 野 福 雄 議員

（2） 1 0 番 仲 田 孝 行 議員

（3） 1 2 番 相 原 孝 彦 議員

## 令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議一般質問項目

日程	順序	通告議員名	質 問 事 項
12 月 8 日 (月)	1	奥 津 一 俊	○地域交通について ○予防医療について
	2	川 口 清 之	○子どもの医療費について ○緊急銃猟制度について
	3	藤 原 治	○幹線道路の歩道の管理等について ○市教職員の働き方改革について
	4	柳 橋 好 子	○小岩井駅の利便性、安全性について ○滝沢市の医療体制構築について
12 月 9 日 (火)	1	村 木 香 織	○第 2 次滝沢市総合計画の進捗について ○市民の安全安心について
	2	安 部 理 絵	○ラーケーションについて ○5 歳児健康診査について
	3	小田島 清 美	○小岩井駅交流スペース充実と観光促進策について ○学校教育における教員不足対策について
	4	鍵 本 桂	○産業用地整備の現状について ○誘致企業の現状について ○市政課題の解決に向けた取組について
12 月 10 日 (水)	1	菅 野 福 雄	○交通事故非常事態宣言等について ○財政再建について ○本市における虐待の現状と取組について
	2	仲 田 孝 行	○加齢性難聴者への補聴器購入支援について ○本市の小中学校の教育の男女平等について
	3	相 原 孝 彦	○障がい者支援について ○総合防災訓練から見えた課題について ○障害者等用駐車区画への屋根の設置について



令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議一般質問項目（通告書全文）

順序	通告議員・質問事項
12 月 8 日	1 奥津 一俊 議員
	○地域交通について
	本市や事業者をはじめ、関係者の懸命な努力にも関わらず、市内のバス路線の減便・廃止が進み、市民が不便を感じている意見が多く把握できる状況下、地域交通に対する持続可能な体制づくりの道筋と具現化に向け、次の 6 点について伺います。
	(1) 令和 7 年 9 月策定の「盛岡都市圏地域公共交通計画」における将来ネットワークで位置づけられた地域内交通について、地域公共交通会議も含め、本市の考えだけでは地域にとって本当に良いものとはなりません。持続可能な、真に役立つ交通を導入するためには、市民と本市がともに取り組むことが重要と考えますが、その対応について、見解を伺います。
	(2) 「盛岡都市圏地域公共交通計画」で示されている盛岡都市圏内外を連結する広域基幹系統（鉄道）に対する目標と目標達成のための施策及び実施事業について、滝沢駅に対する待合環境の改善、P & R の推進及び利便性向上等に対する本市の対応について、見解を伺います。
	(3) 地域間幹線系統の補完を目的とし、市内移動を支える路線、つまり福祉バスと患者輸送バスの再編を含めた地域内フィーダー系統について、新たな 1 路線を追加した 4 路線で検討されているものと想定しますが、少ない運行本数や長い運行時間などの現行問題を改善する方策について、見解を伺います。
	(4) 地域内フィーダー系統について、現状の問題点、課題の整理及び改善に向けた方向性等が滝沢市地域公共交通会議で示されています。その中で、限られた輸送資源の活用に対する改善の方向性として示された公共ライドシェアの導入検討に不可欠な交通空白地の定義について、見解を伺います。
	(5) 地域内交通について、盛岡都市圏内の医療や商業施設の利用、基幹交通機関への乗継のほかに、多くの市民からの声として、生活地域内の商業施設や医療機関にアクセスできる地域内をきめ細かく運行する小さな交通サービスの必要性が上げられていますが、その対応について、見解を伺います。
	(6) 小さな交通サービスについて、免許返納者も含む交通弱者に対する対応、滝沢市地域公共交通会議での協議等を踏まえた場合、交通空白輸送のほかに福祉輸送の検討も必要と考えますが、見解を伺います。
	○予防医療について
	病気の罹患予防を行う予防医療は、急速な高齢化により日本人の疾病構造が変化している現在、社会保障費の縮減と健康寿命の延伸を目指す、総合的な健康増進のための重要な要素として認識されています。本市においても、予防医療によって健康な人を増やすことで、社会保障費の縮減を目指すことが重要であると考え、この観点から次の 2 点について伺います。
	(1) 特定の疾患や健康問題を未然に防ぐための活動、つまり一次予防のうち、生活習慣病対策について、バランスの取れた食事、定期的な運動、十分な睡眠及びストレス管理等が大切です。本市においては「たきざわ健康プラン 21」で具体的目標別の取組が示されていますが、病気の不安から解放され、充実した生活を送る手助けをする観点から、その効果について提示願います。

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序		通告議員・質問事項	
12月8日		(2)	病気の早期発見・治療を通じて、病気の進行や合併症を避ける活動、つまり二次予防のうち、がん検診は、自治体などが行っている地域がん検診、職場ごとに行っている職域検診、又は人間ドックなどで受けることができます。厚生労働省の第4期がん対策推進基本計画で示す目標受診率60%以上、精密検査の受診率90%以上を実現させるため、市内の職場も含めた全市民に対し、検診の内容や受診方法を広報する活動について、官学民が一体となって行うことも重要と考えますが、見解を伺います。
	2	川口 清之 議員	
		○子どもの医療費について	
		(1)	本市では、子ども医療費給付の所得制限を撤廃し、多くの保護者が恩恵を受けました。令和6年4月診療分から子ども医療費給付の所得制限を、令和7年8月診療分から妊産婦医療費給付、重度心身障がい者医療費給付、ひとり親家庭医療費給付の所得制限を撤廃しましたが、これらの対応状況について伺います。
		(2)	子どもの医療費無償化にすべきと考えますが、市の見解を伺います。
		○緊急銃猟について	
		(1)	環境省は、緊急銃猟の4つの条件について、人の日常生活圏への侵入、人への危害を防止する措置が緊急に必要、銃猟以外の方法では困難、銃猟によって人の生命身体に危害が及ぶおそれがないこととしており、これらの条件をすべて満たした場合、市町村の判断で実施できます。このことに対する今後の市の対応を伺います。
		(2)	弾丸による被害への保険内容について伺います。また、その他の保険があれば内容を伺います。
		(3)	本市の猟友会の高齢化に対する支援について伺います。
	3	藤原 治 議員	
		○幹線道路の歩道の管理等について	
		<p>市内の幹線道路で一定以上の幅員の歩道には、点字ブロックや植樹帯・植樹マスが設置されていますが、雑草によりその機能や景観が損なわれているところが見受けられます。地域によっては、自治会等の一斉清掃活動において、きれいに管理されている歩道も多く見受けられますが、一部市道幹線道路の歩道における雑草の管理は、ボランティア活動では手が回らず、市でも管理しきれていないものと推察します。</p> <p>このことは過去に、住民からある路線の歩道の雑草の多さに意見が寄せられ、その後、市側に伝えたところでしたが、改善に至っていません。さらに、市内各地の主な幹線道路の歩道を注視していましたが、雑草が多い等似た状況の歩道は、その歩道だけではありませんでした。このことを踏まえ、以下の3点について伺います。</p>	
		(1)	<p>市民から意見が寄せられた幹線道路（中心拠点商業地区から盛岡市立高校方面に向かう路線）の歩道は、点字ブロックが雑草だらけで機能していないだけでなく、歩道としての幅員も減少し、市民の方からの意見の通りだと感じました。</p> <p>技術的に他市で取り組んでいる目地充填等、何かしらの対策を講じる必要があると考えますが、その見解を伺います。また、この歩道は、盛岡市道とも直結していることから、対策を講じる上では盛岡市と連携を図ることも必要と考えますが、併せて伺います。</p>

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序	通告議員・質問事項
12月8日	<p>(2) 植樹帯に関し、葉の木沢踏切から滝沢東小学校方面に向かう幹線道路の巣子駅付近南側の歩道の植樹マスは、整備後から数年注視していますが、雑草が伸び放題で管理されていない箇所があります。</p> <p>このような植樹帯や植樹マスは、市内に多くあり、歩行の妨げになっているだけではなく、丁字路付近では運転手の視界の妨げや街路樹が伸びて車道にはみ出し、車両通行の障害になっている箇所も見受けられます。</p> <p>一方、自治会等によりきれいな草花が植栽され、管理されている植樹帯や植樹マスもありますが、全く植樹されていない箇所、防草シートが敷かれている箇所も見受けられます。</p> <p>このことから、これまでに設置された植樹帯・マスの管理方針と、新たに植樹帯・マスを設置する場合の基準を明確にすることが必要と考えますが、見解を伺います。</p>
	<p>(3) 先に述べた点字ブロックの課題のある幹線道路は、歩行者が多くないと考えます。今後、新たに設置する点字ブロックの設置基準を明確化すべきと考えますが、見解を伺います。</p>
	<p>○市教職員の働き方改革について</p>
	<p>経済協力開発機構（OECD）が本年10月7日に公表した、2024年実施の国際教員指導環境調査結果によると、日本の教員の仕事時間は、小学校・中学校ともに世界最長であると報告されました。</p> <p>本市教育委員会では「滝沢市教職員働き方改革プラン」を策定し、教職員の時間外勤務の縮減に取り組んでいます。しかしながら、令和3年度から5年度の実績は、月100時間以上の該当者はゼロだったものの、月80時間以上の該当者ゼロの目標は未達成、また、月45時間超・年360時間超の段階的縮減は、目標値と実績値に大きな乖離が生じています。依然として、教職員の働き方の厳しい状況がうかがえました。</p> <p>こうした現状を踏まえ、以下3点について伺います。</p>
	<p>(1) 教職員の長時間勤務の主な要因をどのように分析しているのか、また、授業準備や校務分掌、保護者対応、部活動など、どの業務に時間が集中しているのか、現状を伺います。</p>
	<p>(2) 令和3年度から5年度及び6年度の実績、また、7年度前期の実績を踏まえ、8年度に向けた本市教育委員会の取組として、改革プランにおいて「学校の取組支援」や教職員をサポートするスタッフの配置等の「環境整備」など数項目を掲げていますが、更に時間外勤務を縮減する必要があると考えます。そのために、個別具体的に強化していくべき取組を伺います。</p>
	<p>(3) 本市議会において、先の定例会9月会議で『「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書』を採択し、国に提出したところです。本市では、文部科学省が定めている標準授業時数の年間1,015時間に対し、小学校は臨時休校等に備えた時間を含め平均約1,060時間、中学校は平均約1,080時間で計画しており、増え過ぎることのないように、小学校、中学校ともにしっかりと計画を組んでいるとのこと。今後の授業時数において、超過分の時間を削減・調整すべきと考えますが、その検討がなされているのか伺います。</p>

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序	通告議員・質問事項	
12月8日	4	柳橋 好子 議員
		○小岩井駅の利便性、安全性について
		<p>第2次滝沢市総合計画の「いきいき滝沢」の視点では「子どもから高齢者まで、また障がいのある方もない方も健やかに安心していきいき暮らせる取組を進める環境づくり」をうたっています。その取り組む内容に「地域公共交通の維持及び利便性向上と交通施設の適正な管理」があります。</p> <p>地域住民が安心して、健やかに生活するための施設のひとつである小岩井駅について伺います。</p> <p>現在小岩井駅は、毎日小学生95人、中学生35人、高校生などを加えると約200人近い児童生徒及び学生が通学に利用しています。もちろん、一般の方々の利用も多くあります。長く住民が要望してきた小岩井駅整備が進み、駅前広場が整備されて、送迎の車による危険もだいぶ減りました。また、記念物と揶揄されていたトイレも観光施設と言われるほどきれいになりました。なにより、駅舎が宮沢賢治が降り立った頃のように復元され「国登録有形文化財」となったことは、関係者のご尽力であると住民は感謝し、喜んでいきます。しかしながら、駅舎がきれいになったことと住民の利用が便利になったことは、イコールではありません。</p> <p>令和4年6月会議で「小岩井駅改築について」と題して質問した中で「検討します」との答弁がありながらも、3年半経過した現在も住民の声がさらに大きくなっている次のことについて伺います。</p>
	(1)	<p>小岩井駅南側改札口設置について</p> <p>小岩井駅は、下り線ホーム側から出札するには、階段を利用しなければならず、高齢者や体の不自由な方にとっては非常に苦痛です。エレベーター設置については、一基約1億円、両側で約2億円となることから、設置は無理であることは理解しました。そこで、せめて駅南側に住む利用客のために南口に改札を設ける意向について、3年半前にも質問しました。その時の答弁では「JR東日本からは乗降客数の基準により南口改札の整備は不要と判断していると回答があった。南口改札を整備する場合は、市の財源で整備することになるが、難しい状況である。一方、市としても跨線橋の階段が急で、特に高齢者にとって不便な状況であることは認識しており、他の手法で北口への移動手段の確保など多角的に検討する」とのことでした。その後の検討状況を伺います。</p>
		○滝沢市の医療体制構築について
		<p>第2次滝沢市総合計画のめざす地域の姿のひとつとして「保健・福祉・医療が充実し、誰もが安心して元気に暮らせる地域」を掲げています。市議会としても滝沢市の医療の在り方を議論し、提言してきました。特に住民からは、市内に産婦人科がないこと、小児科が少ないことなどの声が多く聞かれるのは周知の事実です。また、病気を抱えながら、大変苦勞されながらも治療に頑張っている方やその家族が多くいます。その中で透析治療を受けている方について、次の4点を伺います。</p>
	(1)	<p>本市で透析治療を受けている方やその家族の実態を把握しているか伺います。</p>
	(2)	<p>本市には透析治療ができる医療機関がないために、盛岡市などの医療機関に通っています。しかしながら、自分では運転のできない患者さんがほとんどであり、家族が送迎できない場合は、タクシーで往復します。その金額は、家族にとっても大きな負担となります。このような通院にかかる交通費等について、市として助成するべきと考えますが、見解を伺います。</p>

令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議一般質問項目（通告書全文）

順序		通告議員・質問事項	
12 月 8 日		(3)	市として透析治療に特化した市立診療所を創設する考えはないか伺います。 設備投資は必要ですが、国の制度等も調べてみたところ、運営の方法によっては、十分に採算が取れるのではないかと考えました。一考の価値があると考えますが、見解を伺います。
		(4)	市立診療所創設が困難であれば、市民のために市内の医療機関に働きかけて、市内で透析治療ができるようにするべきと考えますが、見解を伺います。

令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議一般質問項目（通告書全文）

順序		通告議員・質問事項
12 月 9 日	5	村木 香織 議員
		○第 2 次滝沢市総合計画の進捗について
		令和 6 年度より第 2 次滝沢市総合計画による事業展開が開始され、滝沢市自治基本条例に掲げる市の将来像「誰もが幸福を実感できる活力に満ちた地域」の実現に向けて、本市は計画期間内に、社会的包摂性が高い地域社会「やさしさに包まれた滝沢」の創出を目指しています。前期基本計画市域全体計画では「市民主体の地域活動への支援と市民生活の基盤の堅持」として、5 つの重要な視点に基づく事業を展開し、ホームページやタウンミーティングなどで本市民に周知を図っています。
		今回は 5 つの重要な視点のうち、「つながる滝沢」と「いきいき滝沢」の中から、以下について伺います。
	(1)	本市が掲げる「つながる滝沢」の視点は、地域と地域、世代と世代がつながるまちづくりを進めるものと受け止めています。そこで 2 点について伺います。
	ア	現在本市では、市内 11 の地域づくり懇談会など、地域で活動する団体を支援し、地域別計画の具現化を図っていますが、地域によって人口の規模や活動の成熟度、充実度には差が出ていると受け止めています。地域間のバランスをどのように考慮しているのか伺います。
	イ	地域づくり懇談会等での市民の意見が、今後どのように反映されていくのか、具体的な市の対応について伺います。
	(2)	「いきいき滝沢」について、本市が掲げているこの視点は、全ての本市民が健康で、生きがいを持って暮らせるまちを目指すものと理解しています。その中で、本年 4 月より実施されている骨髄ドナー支援について、2 点伺います。
	ア	本市が実施する骨髄ドナーやドナーが勤務する事業所に対する支援について、どのような方法で周知をしているのか伺います。
	イ	支援内容に関し、他自治体との違いや特色について伺います。
		○市民の安全安心について
		近年、火災や交通事故のほかにも、集中豪雨等の自然災害、熊やイノシシによる鳥獣被害が発生しており、本市においても、市民の安全安心を脅かす状況が続いていると認識しています。市民に対する安全安心を強化する観点から、次の 4 点について伺います。
	(1)	歩行者や自転車の通行が多い道路、学校の近くに位置する道路など、交通事故が発生しやすい環境に立地する生活道路について、法定速度を時速 30 キロに制限する改正道路交通法施行令が閣議決定され、2026 年 9 月からの施行が予定されています。本市においては市民に対する啓発活動が、今後特に重要と考えますが、その対応について考えを伺います。
	(2)	市民の生活圏に出現するアーバンベアから市民を護るための、特に子どもやスクールガードを護るための方策について、考えを伺います。
	(3)	地域によっては大きな問題となるイノシシの出没に対し、基本的な対策方法となる監視、防護、捕獲及び普及啓発などが対策としてありますが、本市の取組を伺います。

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序		通告議員・質問事項	
12月9日		(4)	近年、電話や郵便などを悪用した振り込め詐欺が大きな社会問題になっています。このため、地域や学校と警察の連携を強化して、犯罪情報の迅速な提供と共有化を図るなど、岩手県警察からの指導のもとに、自治会や各地域団体等の協働による防犯組織の体制づくりや犯罪等に関わる相談ができる地域相談員を育成していくなど、本市として積極的に関わっていくことが重要と考えますが、見解を伺います。
	6	安部 理絵 議員	
		○ラーケーションについて	
		ラーケーションとは、学習と休暇を組み合わせた造語であり、子どもが保護者とともに平日に学校外で主体的かつ探究的な学習活動を行うための制度です。 愛知県では、公立学校の児童生徒を対象に、年間3日まで学校を休める「ラーケーションの日」を導入し、欠席扱いとせず、授業は自習で補うとしています。これは、保護者の有給休暇取得を促し、子どもとの触れ合いの機会を確保する休み方改革の一環です。 本市においても、共働き世帯の増加や働き方の多様化が進む中、家族の事情や教育へのニーズは複雑化していると捉えます。平日しか休みが取れない家庭の事情や遠方に住む親族との交流、あるいは、週末の習い事などで疲労した心身を休ませる必要性など、多様なニーズに応える柔軟な仕組みが求められています。 本制度は、子どもが家庭の事情を負い目と感ずることなく、校外での体験を通じた主体的な学びを深めると同時に、保護者の有給休暇取得を促進し、ウェルビーイングの向上に資する有効な施策であると考え、以下を中心に伺います。	
		(1)	愛知県で導入された「ラーケーションの日」について、本市としてその教育的意義（校外での主体的・探究的な学びの機会の創出）と社会的意義（多様な家庭環境への対応、保護者の休み方改革促進）をどのように評価しているか、また、本市の小・中学校への導入についてどのように考えているか、見解を伺います。
		(2)	本市独自のラーケーションとして「滝沢市学びサポートパス（仮称）」を創設し、市内の公共施設を「ラーケーションの日」に無料で利用できる仕組みを構築し、経済的な負担なく、質の高い体験活動を可能とすべきと考えますが、見解を伺います。
		(3)	経済的な理由や時間の制約で遠出が難しい家庭のために、市内の自然、歴史、産業を題材とした、費用のかからない推奨するラーケーションテーマや探究シートを市教育委員会が作成し、全家庭に提供することも有効と考えますが、見解を伺います。
		(4)	本制度導入にあたり、教員の業務負担増につながらないように、手続きの簡素化やデジタル化を含めた負担軽減策も必要と考えますが、見解を伺います。
		○5歳児健康診査について	
		武田市長の肝いりで今年度より始まった5歳児健康診査（以後、5歳児健診という。）は、保育所等という年中児（年度内に5歳になる児）を対象に、就学前に安心して育ちの相談ができる体制を整えるために実施されます。 この5歳児健診は、支援ニーズを早期に発見し、適切なサポートにつなげることが目的で、発達障害を診断するものではないとされています。今後のフォロー体制の強化について、以下を中心に伺います。	
		(1)	5歳児健診は、秋から冬の保育所等の園健診と同時に実施されるため、まだ全体的な結果は出ていないと思いますが、本市の5歳児健診で「何らかの所見あり／フォロー要」という指摘率は、当初想定していた数値とどのくらいの差異があったのか、また、どのような所見が見られたのか伺います。

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序		通告議員・質問事項	
12月9日		(2)	5歳児健診の結果を受けて、本市で実施されている幼児ことばの教室や療育教室の利用者が増加することが想定されますが、今後の教室数の増加やフォロー体制の強化策について伺います。
		(3)	幼児ことばの教室から継続して小学校のことばの教室に通級する場合、現在でも通級者が増加傾向にあることばの教室について、指導教員の追加や設置校を増やすなどの対応が必要と考えますが、見解を伺います。
	7	小田島 清美 議員	
		○小岩井駅交流スペース充実と観光促進策について	
		小岩井駅舎のリニューアルが終わり、8月には「JR田沢湖線小岩井駅本屋」が国登録有形文化財に登録されました。交流スペースは住民の憩いの場、乗降客にとっての休憩所として定着しつつあります。また、小岩井農場や盛岡つなぎ温泉等の観光地への起点の場ともなりつつあります。今後の住民活動の活発化や交流人口の増加など、観光の起点とした小岩井駅を目指すための環境整備が必要と捉えています。そこで、以下の点を中心に市長の見解を伺います。	
		(1)	駅舎が文化財となったことにより、観光の目玉として見学者がマイカーで訪れたり、電車を利用する人が一時的に駐車するスペースが不足していると捉えています。駅を利用する人たちの利便性を高めるための駐車場の拡張について、見解を伺います。
		(2)	交流スペースを活用して、子どもや一人暮らし高齢者の人たちへ簡易な食事を提供するための調理ができる厨房の整備について、見解を伺います。
		(3)	駅から観光地等への移動手段は、徒歩かバス、あるいはレンタルの自転車に限られていますが、移動の多様化に対応する2次交通の充実について、見解を伺います。
		(4)	市の除雪機が配置されていますが、降雪時の歩道除雪は遅く、歩行に支障が生じます。管理者が歩道確保のため、一時的に除雪できる機械の配置について、見解を伺います。
		(5)	交流人口の増加を目指すために、雫石町を含めた住民、行政、企業、関係団体による協議の場の設置について、見解を伺います。
		○学校教育における教員不足対策について	
		<p>学校における働き方改革を含む教員を取り巻く環境整備が進められていますが、マスクミ等で取り上げられるごとに、教員を目指す人が少なくなっているという状況が伺えます。一昔前は、やりがいのある仕事であり、子どものために寝食を忘れてともに活動し、泣き笑い充実感のある職種であったことが遠い昔のようになっています。</p> <p>教員のなり手不足は、病気休暇や育児休暇等があった場合の臨時教員の不足に大きく影響しています。学校現場から臨時教員の配置申請があっても、配置までに長い時間を要し、副校長が担任となったり、校長自らが授業を行ったりしている現状です。その結果、補充教員が不足し、自習体制が多くなり、出張から帰ってきたときの後処理等も膨大になります。さらに、休暇も取りづらくなってしまいます。</p> <p>こうした現状は早急に解消を図るべきと考え、以下の点を中心に教育長の見解を伺います。</p>	
		(1)	既に教員個々において生成AIが活用されていると捉えていますが、復命書や報告書、研究紀要や指導案等様々な場面で教員の業務の効率化を図るため、生成AIを最大限に活用することについて、見解を伺います。



令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序		通告議員・質問事項	
12月9日		(2)	小学校は昔から学級王国と呼ばれ、学級担任が全ての責任をもち、学級経営や教科指導を行ってきました。メリット・デメリットがありますが、教員の不足状態にあつては、教科担任制を更に推し進め、チーム学校として対応することについて、見解を伺います。
		(3)	市教育委員会として補充教員確保のために、退職教員等の中で教員として働く意思のある人をリストアップした名簿作成の検討について、見解を伺います。
		(4)	教員不足解消のために、特別支援教育支援員等様々な支援員を増員することについて、見解を伺います。
	8	<b>鍵本 桂 議員</b>	
		<b>○産業用地整備の現状について</b>	
		イノベーションパーク拡張に向けた基本設計の実施として、令和7年度はICT産業集積拠点整備事業を約3,400万円で行っています。令和7年5月に県へ用地確保に向けた速やかな取組及び産業用地開発の支援策の充実を図る重点要望を行った後は、動きが鈍化していると認識しています。 今後、更なる県への働きかけが必要と考え、以下を中心に当局の見解を伺います。	
		(1)	いつまでに用地を取得し、ICT産業などの産業用地整備を完了させる計画か、当局の見解をお示してください。
		(2)	新たな産業用地取得に向けた県や関係機関との協議及び手続を行う上で、事業完了までの全体的な日程の共有が図られているか伺います。
		(3)	用地確保を完遂させるために、県や関係機関からの条件整理や課題解決をするために意思疎通が必要と考えます。関係性構築のため、本市からどのような手段で合意形成を図るか、方策をお示してください。
		(4)	整備手法や基本設計で取りまとめた予算も含めた、見取り図的な将来計画の公表時期をお示してください。
		<b>○誘致企業の現状について</b>	
		イノベーションパーク拡張に向け、新たに誘致していく上で、どのような条件で企業を誘致するのか、現状の入居企業の実情も踏まえ、考える必要があると認識しています。 イノベーションセンターの目的として、企業は大学との共同研究、大学の研究成果活用と優秀な人材の確保が目的で、大学は企業との共同研究、実務教育を通じた人材育成と研究成果の活用が目的となっています。 本市の目的は、地域産業の発展と雇用の確保となっており、県立大学生の就職等の受け皿となっているか、市民の雇用はどのようにになっているのかを再度検証し、さらに、拡張後の企業誘致の条件や何のために事業用地を造成し、企業誘致を行うのかも再度検証する必要があると考え、以下を中心に当局の見解を伺います。	
		(1)	NPO法人イノベブリッジたきざわが発足し、市内企業のIT導入相談や子ども起業体験などの取組は、地域産業の振興にも寄与するものと考えますが、市がイノベーションセンターやイノベーションパークへ投資した財源について、経済効果や税収等により、いつまでに回収する計画なのか、当局の見解をお示してください。
		(2)	令和7年度雇用状況調査では、従業員の割合が198人中、県立大学卒業生48人に対し、県立大学生以外の雇用が150人と県立大学卒の雇用が約25%、市民の雇用割合も198人中71人で全体の約36%となっており、本市の目的である雇用の確保と一致しているのか、当局の見解を伺います。

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序		通告議員・質問事項	
12 月 9 日		(3)	独自で行ったアンケートへの回答では「イノベーションセンター・パークへ入居したことで企業の経済活動が有利になったか」の問いに対し「有利になった・とても有利になった」との回答が85.7%と誘致企業に喜ばれる一方で、「市民を雇用したいか」の問いには「市民にこだわらない」が64.3%、「雇用したい」が28.6%、「雇用したいが適正人材が少ない」が7.1%、「雇用したくない」が0%の回答でした。この結果を踏まえ、拡張後に新たな企業をどのような条件で誘致するのか、当局の見解をお示してください。
		○市政課題の解決に向けた取組について	
		従来行っていた県に対する要望に加え、市単独による国の省庁への単独要望の実施と効果の反映時期を中心に見解を伺います。	
		(1)	市長就任以降の新規取組として行った単独要望の内容とその効果の反映時期について、見解を伺います。
		(2)	近隣市町の財政難が取り沙汰される中、本市は安定した財政運営を継続する点でも、国の省庁へ単独で要望を実施できる体制は不可欠と認識していますが、任期中に市長が行わなければならないと考える要望内容をお示してください。

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序	通告議員・質問事項
12月10日	9 菅野 福雄 議員
	○交通事故非常事態宣言等について
	<p>岩手日報の報道によると、岩手県交通安全対策協議会は、今年の9月5日から14日までの10日間の期間で交通事故非常事態宣言を発令しました。この期間中、市町村や県警など関係機関・団体が啓発活動や指導、取り締まりを強化しました。この宣言発令は、2007年8月27日以来18年ぶりです。県内では、今年8月7日以降、交通死亡事故が相次ぎ、9月4日までに11件発生し、11人が死亡しました。今年の死者数は9月4日時点で23人となり、前年同期を5人上回っています。同協議会は「死亡事故の発生が異常な増加傾向にある」と判断し、宣言の発令に踏み切りました。宣言を受け、県、市町村が立て看板の設置や広報車で安全運転を呼びかけるほか、県警は街頭活動や取り締まりを強化しました。このことについて、次の3点を伺います。</p>
	(1) 本市は非常事態宣言発令中に、非常事態に特化した対策を講じたのか伺います。
	(2) 昨年11月から改正道路交通法が施行され、自転車の酒気帯び運転に対する罰則の新設や自転車運転中の「ながらスマホ」の罰則が強化されましたが、交通安全教室などでの対応状況を伺います。
	(3) 横断歩道は歩行者優先のルールがありますが、高齢者になると優先と意識するあまり、危険な状況でも渡ろうとする状況が見受けられますが、市民に対する周知・対応状況を伺います。
	○財政再建について
	<p>盛岡市は財政難を理由に2026年度から順次123事業を見直す方針です。盛岡・北上川ゴムボート川下りや盛岡国際俳句大会など各種団体等への負担金・補助金、地域活動バスの運行など幅広い分野で廃止や予算圧縮を検討しています。今後、関係団体から意見を聞き取るようですが、市民生活への影響は必至で、反発も出るのではないかと考えています。</p> <p>一方、本市の現状については、6年度の実質収支額約7億1,400万円から5年度の約5億6,300万円を差し引いて約1億5,000万円の黒字、財政調整基金については、積立金約4億2,745万円に対して、取崩額約7億7,943万円の差は約3億5,000万円であり、6年度の実質単年度収支額は約2億円の赤字となっています。このことについて、次の3点を伺います。</p>
	(1) 滝沢市中期財政運営方針では、財政調整基金残高が毎年約3億円のペースで減額されており、このままではいずれ底をつくことになります。新たな財源を確保しなければならないと思いますが、当局の見解を伺います。
	(2) 少子高齢化による人口減少が続いている状況やふるさと納税の控除額の増加など、財政の規模が縮小されるため、盛岡市のように事業の見直しを検討すべきと考えますが、当局の見解を伺います。
	(3) 第2次滝沢市総合計画は市の将来像である「誰もが幸福を実感できる活力に満ちた」地域の実現に向け、令和6年度から令和13年度までの8年間で、市民それぞれの周囲にやさしさが循環するような社会的包摂性が高い地域社会「やさしさに包まれた滝沢」を創出することを目指した「地域社会計画」となっています。しかしながら、第2次滝沢市総合計画の初年度（6年度）から赤字となり、この計画は前途多難であると考えます。政策は予算があってはじめて成り立つため、「稼げる滝沢」の政策を掲げ、全職員に周知、研修を行い、市民等にも意見を求めながら打開策を検討していくべきと考えますが、当局の見解を伺います。

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序	通告議員・質問事項
12月10日	○本市における虐待の現状と取組について
	<p>11月は「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」の期間でした。全国の児童相談所が対応した児童虐待相談件数は年々増加し、令和5年度には約225,000件に達しています。子どもの命が奪われる痛ましい事件も後を絶たず、児童虐待の防止は、社会全体で取り組まなければならない喫緊の課題です。本県における令和5年度の虐待相談対応件数は2,992件で、前年度から362件増加し、過去最多となっています。虐待による不幸な事件が後を絶たず、防止策や当事者の保護、虐待をする加害者側への適切な支援に対する具体的な取組が必要です。このことについて、次の6点を伺います。</p>
	<p>(1) 本市における令和6年度の児童虐待相談対応件数を伺います。</p>
	<p>(2) 本市では「第3期滝沢市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、児童虐待防止対策（又は要保護等児童対策）の取組が行われています。児童虐待は、発生予防から早期発見、迅速・的確な対応、被虐待児の自立支援までの一連の対策が重要です。母子保健事業や子育て支援事業において、児童虐待防止の視点を強化し、虐待のハイリスク家庭等養育支援を必要とする家庭を早期に発見する等、適切な支援活動が求められますが、具体的にどのような取組を実施しているのか伺います。</p>
	<p>(3) 児童虐待対応について、被害を受けた子どもへの対応と加害者の保護者支援について、それぞれ本市の取組状況を伺います。</p>
	<p>(4) 本市で受理した児童家庭相談から、育児負担の軽減や養育者の孤立を防ぐ目的で、地域の一般子育て支援サービスを紹介し、地域の育児支援機関につなげる等、行政だけでなく、NPO法人や地域の関係機関との連携が望まれますが、本市の現状と課題について伺います。</p>
	<p>(5) 11月の広報たきざわに児童虐待防止推進月間等について「体罰などによらない子育てを広げよう」との題で記事が掲載されていました。子どもの人権尊重や児童虐待防止について、市民に啓発、推進していくための今後の取組について伺います。</p>
	<p>(6) 児童虐待防止への対応は「安心して子育てができる環境づくり」が重要と考えます。その実現が、やさしさに包まれたまちづくりにつながっていくと考えますが、見解を伺います。</p>
10	<p>仲田 孝行 議員</p> <p>○加齢性難聴者への補聴器購入支援について</p> <p>2025年は団塊の世代全体が後期高齢者となる年です。加齢性難聴者は増え続け、65歳以上の高齢者の5人に1人である約1,500万人とも言われています。また、補聴器使用者はそのうち13.5%で200万人いると推計されていますが、その利用率は、欧州諸国の3分の1程度と言われています。難聴者へはできるだけ早めの処置が肝要とされ、本市としても、介護保険サービスの利用にあたり実施する訪問調査の際に、聴力検査も行う必要があると考えます。これらを踏まえ、以下2点を伺います。</p> <p>(1) 前々回質問時は県内で支援をしている自治体はゼロ、前回質問時は5市1村でしたが、今回は11市町村と大幅に増加しています。このような状況をどのように捉えているのか伺います。</p>

令和7年滝沢市議会定例会 12月会議一般質問項目（通告書全文）

順序		通告議員・質問事項		
12月10日		(2)	東京都新宿区では、70歳以上で聴力が低下した方に、補聴器購入に係る費用のうち、33,000円を上限に実費を助成しています。また、東京都葛飾区では、住民税非課税の方に144,900円、住民税課税の方に72,450円を上限に助成を行っています。本市も難聴者が健康で文化的な最低限の生活を送れるように、補聴器購入への助成を行う考えはあるのか伺います。	
	○本市の小中学校の教育の男女平等について			
		(1)	日本の教育制度は、男女ともに同じカリキュラムで、進学機会も平等です。社会は女性差別がいまだに強いですが、学校は平等で、女性も努力すれば相応の評価と成果が与えられると思われています。学校では、男子・女子と分けずに「子ども」として平等に扱うことが良いことだとされています。 日本の女性校長の割合は、国際的にみて異常に低いです。OECDが2018年に実施した国際教員指導環境調査の結果では、参加加盟国・地域の中で中学校では最低、小学校でも2番目に低い結果です。そこで2点伺います。	
		ア	本市の小・中学校の校長・副校長は男性の割合が多いですが、その原因をどのように捉えているのか伺います。	
		イ	女性が管理職を志向しない理由として「女性は男性と比べ、育児等の家庭生活の役割との両立が困難であること」「力量不足」を理由として挙げている割合が高いとされていますが、本市の現状を伺います。	
		(2)	各学校の「めざす子ども像」を見ると、「たくましい子ども」「あかるくかしこく たくましく」などの文言があります。多くの学校が目指しているのは、自立した個人、自らの能力で勝ち抜く子ども達であり、そこに向かって努力することが教育の目標として語られているようです。そこで2点伺います。	
		ア	本市の教育目標は、男女平等に基づく目標になっているのか伺います。	
		イ	生徒指導における考え方について、生徒指導を担当する教員が、指導する際に男性目線優位となっていないか伺います。	
	11	相原 孝彦 議員		
		○障がい者支援について		
	障がいのある方が生まれ育った地域で暮らすためには、福祉サービスの提供体制、相談支援体制の強化、理解を深める取組が必要と考え、以下について伺います。			
	(1)	障がい者の在宅ケアに必要な日常生活用具給付の品目に、屋内で使うポータブル電源や蓄電池も含むべきと考えますが、市長の見解を伺います。		
	(2)	物価高によるオストメイトの方のストーマ装具購入に対する支援の見直しの考えを伺います。		
	(3)	聴覚や発話に困難のある方が利用できるように、市のHPに国の「電話リレーサービス」へのリンクを設置し、市民が手話や文字を介して行政窓口にお問い合わせのできる仕組みがあります。本市でも導入するべきと考えますが、見解を伺います。		
	(4)	障がい者や高齢者が「賃貸住宅が借りられない」という状況から、国は今年の4月から、自治体の相談体制の整備や家賃の安い住宅への転居支援を盛り込んだ「生活困窮者自立支援法等改正法」を施行しました。また、10月からは入居者の生活を継続して支援し、大家が安心して物件を貸し出せるよう「改正住宅セーフティネット法」が施行されています。これらについて、本市での周知方法と課題点を伺います。		

令和 7 年滝沢市議会定例会 1 2 月会議一般質問項目（通告書全文）

順序	通告議員・質問事項
12 月 10 日	○総合防災訓練から見た課題について
	毎年 1 0 月に市の総合防災訓練が行われます。訓練に参加し、課題等があると考え、以下について伺います。
	(1) 避難所での情報収集のためのフリー W i - F i 設置の考えを伺います。
	(2) 今年 1 0 月に行われた総合防災訓練における通信訓練でみられた電波状況の改善策を伺います。
	(3) 避難所の非常用電源確保のための再生可能エネルギー活用の考えを伺います。
	(4) 視覚障がい者や高齢者など、既存のハザードマップを活用できない方に対し、危険箇所や避難所などの情報を提供する「耳で聴くハザードマップ」の導入の考えを伺います。
	(5) 避難所生活における「口腔内ケア」について、どのように対応していくのか考えを伺います。
	○障害者等用駐車区画への屋根の設置について
	滝沢総合運動公園南駐車場の障害者等用駐車区画から入り口まで屋根がかけられ、利用者からは喜ばれています。しかし、市役所駐車場に障害者等用駐車区画が設置されてから 1 0 年以上が経過していますが、いまだに屋根の設置には至っていません。この状況について市長の考えを伺います。また、市役所正面玄関までの通路の動線が確保できないようであれば、庁舎南側の職員通用口に屋根を設置すれば、毎月広報を取りに来る市シルバー人材センターの方や職員の皆さんも雨に当たらず、車への乗り降りができると思いますが、市長の考えを伺います。